

全国学力・学習状況調査において 特徴ある結果を示した学校における取組事例集

～確かな学力を身に付けさせるために今できること～



平成25年10月

東部教育事務所

<はじめに>

本事例集は、平成 25 年度の全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した東部教育事務所管内を中心とした学校の取組をまとめたものです。学力向上対策や指導方法など各学校が今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにすることを目的としています。年度途中からでも取り入れられる取組が数多くありますので、学校の実態に応じて積極的に取り入れてほしいと思います。

また、11 月に群馬県教育委員会から発行される「結果分析資料」や「はばたく群馬の指導プラン」等を参考にして、基礎的・基本的な知識の習得や活用する力を高めるために更なる工夫改善を図っていただきたいと思います。

最後に、本事例集の編集に当たり、御協力いただきました教育委員会、学校の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 25 年 10 月 東部教育事務所

～目次～

1	授業の工夫	
(1)	予習を生かした授業の工夫	1
(2)	学習の成立確認	1
(3)	板書の工夫	2
(4)	学習形態	2
(5)	教科担当制(小学校)	4
2	学びの基礎づくり	
(1)	ドリル学習	6
(2)	ノート指導	7
(3)	補充学習	8
(4)	忘れ物防止	9
3	家庭学習の工夫	
(1)	家庭学習のめやす・ノート	10
(2)	宿題の出し方	11
(3)	【資料】家庭学習の手引き	12
4	校内研修	
(1)	国語	19
(2)	算数	21
(3)	校内研修の充実に向けて	24
5	その他	
(1)	全国学力・学習状況調査の活用	26
(2)	全国学力・学習状況調査の自校での採点	26
(3)	自作テストの実施	27
(4)	教育委員会による取組	27

※データは5つのシートになっています。

*内容についての問い合わせは、東部教育事務所学校教育係(0276-31-7151)へお願いします。

1 授業の工夫

(1) 予習を生かした授業の工夫

【予習を生かした導入や授業の工夫】(小)

授業のレディネスづくりや学習内容のおおよその理解をとおして意欲的に授業に取り組めるようにする。

(1) 音読

- ・ 学習内容の把握
- ・ 分からない部分や言葉に印をつける
- ・ 人物の気持ちが分かる部分に線を引く

(2) 調べ学習

- ・ 人物や事象について調べる
- ・ 生活の中から事前に探してくる
- ・ 家族等へのインタビュー

(3) 教科書の文や図表の視写

(2) 学習の成立確認

【学習の成立が分かるまとめの工夫】(小・中)

本時の学習が成立(ねらいが達成)したかを終末場面で確認して、確かな定着を図るとともに、児童に達成感・成就感をもたせて授業を終える。

- (1) **完成法** … 文や図表に空欄を設け、用語や数値などを記入させる
- (2) **選択法** … 複数の選択肢を設け、正しいものを選択させる
- (3) **線結び法** … 関係あるものどうしを線で結ばせる
- (4) **真偽法** … 概念、定理、数値などを示し、その真偽を判定させる (○×)
- (5) **訂正法** … 誤った文や数値などを、正しく直させる
- (6) **演習法** … 類題を解かせる
- (7) **実技法** … 実際にやらせる

(3) 板書の工夫

【板書の工夫】（小・中）

授業構想において板書計画を立てることでねらいを明確にするとともに、効果的な板書により児童の思考の助けとなるようにする。

- (1) **学習課題（ねらい）を書き、赤枠で囲い、強調する**
 - ・本時のねらいを全員に明確にさせる
- (2) **1時間の主な内容について、簡潔にまとめる**
 - ・板書を見れば学習内容が分かるように（図式化やフローチャート化）
- (3) **大切な内容を強調する**
 - ・線で囲む ・チョークの色を変える
- (4) **板書をノートに写す時間を確保する**
 - ・写した後に自分の考えを書かせる

(4) 学習形態

【小学校における算数科の取組】（小）

- (1) 授業（TT・少人数）

① 学級担任と加配教員の役割の明確化

ア〈役割分担〉担任→年計等の立案、指導計画 加配→プリント・テストの作成・採点

〈授業前の協力〉レディネステスト、分析、支援計画（補充的指導も）

〈授業中の協力〉助言方法の共通理解実践、形成的な評価

学級担任と少人数担当教諭の役割分担〈算数指導は少人数担当教諭中心〉

イ 少人数担当教諭がその学年の算数をT1として指導（計画立案・プリント作成等）

ウ グループ学習において、担任とTT担当教員がグループごとに担当を割り当てて指導（担当は予想のレベルによって決める。）

② 単元の指導過程等に応じた少人数分割

原則は等質の分割であるが、単元の終末や学期末・学年末における学習の定着を図る時やテスト後の復習の時間等に習熟度編成を行う。

【効果的なT Tの在り方】

<具体的な取組> 小学校5年生「三角形の求積」

ポイント1 指導する内容を分けて見通しをもたせる

T1

前時の学習内容との違いを確認しながら、問題を提示することで間接的に本時のねらいに迫れるようにしていました。

これまでの面積を求める学習では、どう考えて求積していたかを想起させ、その中で生かせる考え方はないか投げかけました。

T2

→ 前時の学習内容（直角三角形の面積をどう求めたか）をテンポよく確認しました。

→ 既習の求積公式（長方形、正方形、平行四辺形）を確認しました。

問題提示

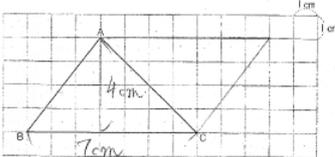
↓

見通し

↓

既習事項の確認と問題提示について役割を分担して指導し、T Tのよさを生かす工夫が見られました。既習事項が活用できるということを意識させることで問題解決の見通しをもちやすくすることができます。

ポイント2 指導する場を分けて個に応じた指導を行う



方眼入りのワークシートに書き込みながら

自力解決

↓

集団解決

なかなか自分の考えをもてない児童に声をかけ、教室の後ろのヒントコーナーで図を見せながら、解決の糸口を見付けさせていました。ヒントコーナーから「わかった!」と笑顔で自席に戻る姿がたくさん見られました。

指導する場を分け、T1の先生はワークシート上に描かれた図について助言しながら机間指導をしていました。T2の先生はヒントコーナーに集めて指導していました。二人で指導するからこそできる、個の習得状況に応じた指導の一形態です。

考えをまとめ、悩んでいる児童に考え方の糸口を示していました。

すると、「あ、そうか!」とまた鉛筆が走り出していました。

自分の考えをもてない児童はいませんでした。

ポイント3 連携しながら支援を分担して比較・検討が進むようにする

代表的な考えを選び、全体場で発表させました。そして、必要に応じて児童の説明を適宜補足しました。

続いて、徐々に視点を絞りながら比較・検討を進めました。

- ①「気付いたこと、分かったことは何か」
- ②「(それぞれの考えで) 似ているところや共通点はないかな」
- ③「式を見て考えて」

と投げかけていきました。児童は話し合いを通してどのような見方・考え方を使って問題解決したのかを明らかにしていきました。

比較・検討

↓

まとめ

児童の説明を聞きながら、それを図で表すとどういうことかを動的に示し、分かりやすくしていました。

言葉だけだと分かりづらいこともあるため、視覚的に示すよさについても実感させていました。

元来、T Tは Team Teaching の略です。最も教育効果が上がるように、複数の先生方が、いかに児童生徒に関わっていくかを考える必要があります。T1が授業を主導、T2が低位群の児童生徒のケアという形態だけがT Tではありません。この授業では、事前の打合せが十分に行われるとともに、個に応じた指導を充実させるための工夫も随所に見られました。

児童生徒の実態に合った、最も効果的なT Tの在り方を模索しましょう。

(5) 教科担当制 (小学校)

【小学校中学年・高学年の例】

<教科担当制の目的>

- ①学力の向上
- ②教師の専門性を磨き、授業の質を向上させる。
- ③生徒指導の充実（情報の共有を図り、教科指導に生かす）
- ④1時間1時間の授業に責任をもつ。（他の時間は使えないという意識を強くもつ）

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	家庭	英語
3年1組 (E教諭)	P				P				
3年2組 (F教諭)	P				P				
4年1組 (G教諭)	P			O	P				
4年2組 (H教諭)	P	Q		O	P				
5年1組 (I教諭)	J・P	Q	I	O	P	J		I	H
5年2組 (J教諭)	J・P	Q	I	O	P	J		I	H
6年1組 (K教諭)	K・P	Q	L	O	P	K		L	H
6年2組 (L教諭)	K・P	Q	L	O	P	K		L	H

理科専科 (O教諭)

音楽専科 (P教諭)

教務 (Q教諭)

【教科担当制の有効な活用】

具体的な実践

○ 高学年教科担当制の教員配置

- ・平成24年度は6年のみの実施であり、国語・書写、体育・図工、音楽、理科、算数（少人数）の6教科を6名の教員で行っている。
- ・平成25年度は5・6年で9教科を7名の教員（A～G）で行っている（図参照）。
- ・3・4年は理科と音楽のみ専科が行っている。

≪5・6年生の教科担当制≫

学年	国語・書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	家庭	英語活動
5年	A・B	B	C D	E	F	G	G	F	B
6年	A・B	B	C D	E	F	G	G	F	A G

○ **教科指導の充実による学力向上**

- ・指導する教科数が減り、教材研究の時間が充分に取れるため、授業の質を高められる。
- ・複数の学級を指導するため、1回目の授業の反省を2回目の指導に生かせる。
- ・理科では、観察・実験の時は専科と担任とのTTとするため、きめ細かい実験ができる。
- ・「教科担当制部会」を定例化（毎月1回）して、実施上の課題や学習態度・生徒指導の情報交換するため、個に応じた指導ができる。

○ **多面的な児童理解**

- ・多くの教師が児童にかかわることで、担任とは違う視点から児童のよさを見とることができるため、児童理解を深められ、よりきめ細かな生徒指導ができる。

○ **中1ギャップの解消**

- ・教科担当制の効果を確かめるため、中学校へ入学後に追跡調査を実施する。

成果と課題 (○：成果、●：課題)**<教科指導の充実による学力向上>**

○成果

- ・6年児童のアンケート結果（H24）では、「授業が詳しく、幅広く教えてくれた。」など80%以上の児童がよいと回答した。
- ・教員アンケートの結果（H25）では、全員の先生が教材研究がしっかりできると回答した。
- ・CRT 学力検査の理科の得点率（H24）が平成23年度と比べて5年は5.8ポイント上がり、6年は3ポイント上がった。また、6年の技能の得点率が1.7ポイント上がった。少人数、個別の観察・実験の実施の成果であると考ええる。

●課題

- ・4年児童のアンケート結果（H24）では、13%の児童が担任以外に教わることに不安を感じていた。
- ・6年児童のアンケート結果（H24）では、「移動が多い、先生によって児童が態度を変える」が課題として挙げられた。
- ・教員アンケートの結果（H25）では、「移動・宿題・授業変更が大変、補習の時間が取りにくい。」が課題として挙げられた。

<多面的な児童理解>

○成果

- ・「複数の教師がかかわることで、情報交換がより密に濃くなった。多くの先生方で見るので、よい面が多く分かる。」が成果として挙げられた。

●課題

- ・「担任として、児童とのかかわりが減ってしまう時間を補う工夫が必要である。」が課題として挙げられた。

<中1ギャップの解消>

○成果

- ・中1生徒のアンケート結果（H25）では、89%の生徒が教科担当制が中学校生活に役立ったと回答した。

2 学びの基礎づくり

(1) ドリル学習

【「ドリルタイム」実施】(小)

- 毎日5校時の始業前の10分間(14:00~14:10)に「ドリルタイム」を設定して実施。
- 実施の方法は、**国語科、算数科、社会科(3年生以上)、理科(3年生以上)**の教科において、授業の進度に応じた内容や復習させたい内容を担当者(担任又は少人数担当教諭)が選択している。
- 問題は、**教科書会社の問題作成ソフト**を利用。費用については、PTA活動費より充当。このデータベースの特徴として、**同じ学習範囲において3段階のレベルの問題**が用意されており、学習の定着の様子や個々の状況に応じた対応が可能。また、テンプレートを用いて、**オリジナルの問題を付加**でき、学級の実態に応じた工夫もできる。
- 宿題にも用いており、**学校での学習と家庭での学習をリンク**されて進めることができている。また、宿題での個々の取組状況を確認することで、授業の中でもフォローアップが可能。

【活用する力を伸ばす問題集の活用】(小)

- 算数科では、一般的な市販のドリルの代わりに某大学附属小学校の算数部会で発行しているドリル教材を活用している。**基礎的・基本的な問題に加えて数学的な思考力や表現力を伸ばすやや発展的な問題が含まれている**。主に授業時に、基礎的・基本的な問題については補充問題として扱い、やや発展的な問題については、速くできた児童が取り組めるようにしている。
- できる児童にとっては、待ち時間が少なく、算数科の意欲を高めるためにも有効。しかし、個別指導が必要な児童にとっては、負担感があることは否めない。したがって、全員にとって有効な活用方法にするためには、授業担当者の上手な取り組ませ方や教育的な配慮が大切。

【放課後ドリルの取組】(中)

毎週3回全学年で**短学活後の5分間**ドリル学習(漢字・計算)

【朝の10分間を利用】(中)

朝の総合読解の時間(毎朝10分間)を設定し、以下の4つのテーマをローテーションしながら行っている。

① 読書活動

〈読んだ本の記録→紹介カード作成・掲示→友達の紹介カードの工夫点を見つける〉

② 委員会活動 (伝える力の向上)

〈例〉保健委員会

・アンケートに答える→集計結果から夏の暑さの問題について考える→熱中症の予防についてのビデオを見て予防について考える→心がけを話し合う

③ 新聞活用 (総合の時間のテーマに関するものの中で各自が記事を1週間集める)

・各自が記事紹介を書く→班で記事の回覧→優秀な記事の決定→発表

④ スキルアップ (多様な資料を読みとらせ、表現力の向上)

・各学年の身長データから平均の予想、中央値・平均・度数分布の作成等

(2) ノート指導

【算数ノート指導①】(小)

わからなかったら自分のノートを振り返るという習慣作り。

どこに何が書いてあるのか、大事なことがすぐ分かるように書くことが大切であることに児童自身が気づき、間違えた部分を消さずに残しておいたり、色をつけるなどの工夫をしたりしながらノートを書く姿が見られるようになった。その際、よりよい考えや思考の仕方等もポイントとして書く子も見られ、数学的な見方や考え方を活用できるようになった。

【算数ノート指導②】(小)

〈課題(問題)・予想・友達の考え・まとめ・振り返り〉の項目ごとに整理して見開き2ページ

授業後半にまとめ・振り返りを行う際には、ノートの流れに沿って、思考過程を確認させる。振り返りの場面では、学習した内容が、生活や他の学習に活用できるかどうかも考察するよう指導。

(3) 補充学習

【学習支援特配の活用】 (中)

※通常の授業では少人数およびTT指導を国語・数学・英語で実施している。

(1) 放課後の補習

補習の名称を「パーティー」とし、補習へ参加しやすい雰囲気になっている。

教科・・・数学と英語を中心に実施

日時・・・曜日ごとに学年と教科を決め、放課後1時間程度

対象者・・・各教科の学力不振生徒と希望者

定期テストなどの結果から対象生徒を指名し（パーティー招待状を渡し）継続的に補習を行う。

内容・・・基礎的な内容のプリントなど

課題・・・放課後実施している部活指導との時間の調整

(2) 定期テスト前の学習会

テスト前の部活中止期間（3日間）に放課後1時間程度学習会を実施。学習の質問をしやすい環境を図書室で設けている。バス増便をし、バス通学生徒にも対応している。

対象者・・・希望者

内容・・・各自用意

(3) 長期休業中の学習会

「夏休みスタートだ補習」（1・2年生 7月22日～26日）

・・・部活ごとに1時間程度の学習時間を設け、夏休みの課題に取り組む。

「夏休みラストスパート補習」（1・2年生 8月19日～23日）

・・・部活の顧問の推薦を受けた人（夏休みの課題提出が心配な人）が集まり、夏休みの課題に取り組む。

「サマーパーティー」（3学年で学年別）

・・・学年の学力不振者を教科担任が指名し（招待状発行）、夏休みの課題に取り組む。

【放課後の補充学習】(中)

放課後に「**ステップアップ教室**」を実施している。定期テスト等の結果から対象者を絞り、教員が声がけをして、**数学及び英語の基礎基本を繰り返し指導**している。数学及び英語の担当教員に加え、おおたん教育支援隊の職員、管理職が関わり個別に指導を行っている。指導者が個別に答え合わせを行い、分からない問題については解説をしている。

放課後に時間がとれない日には、課題としてプリントを配付し、次の日の朝に提出させている。

放課後という短い時間だが、自主的な学習をとおして学習習慣を身につけられるようにしている。

【夏休み中の補習学習】(中)

夏季休業中に「おおたん教育支援隊」の職員や各学年の教員が中心となり、**10日間(午前2時間・午後2時間)補習学習の時間を設定**した。生徒は各自課題を用意し、分からない問題について質問をしたり互いに教えあったりしながら学習に取り組むことができた。

(4) 忘れ物防止

【忘れ物ゼロを目指して】

- 前日に、翌日の持ち物の確認を徹底する。
- 音読カードや宿題の学習プリント等の提出状況、学習用具の準備状況を毎日必ず確認する。
- 忘れ物が続く児童には、家庭と連携し、忘れ物がなくなるようにしていく。
- 学年・学級だより、学級懇談会等で、保護者の意識も高めるようにするとともに、忘れ物をしないように協力を依頼する。

3 家庭学習の工夫

(1) 家庭学習のめやす・ノート

【家庭学習のめやす】（小・中）

- 家庭学習の1日の目安の学習時間を全校共通理解のもと設定する。
例：低学年（30分以上）中学年（40分以上）高学年（50分以上）
中1年（60分以上）中2年（90分以上）中3年（120分以上）
- 塾や習い事等もあるので、週当たりの目安の学習時間も設定する。
例：低学年（150分以上）中学年（200分以上）高学年（250分以上）
中1年（300分以上）中2年（450分以上）中3年（600分以上）

【家庭学習ノートの活用】

- その日の取り組んだ家庭学習の学習内容や学習時間、保護者印、担任印が押せる欄を設けた家庭学習表を作成し、毎日提出させる（家庭学習ノートやファイルに閉じさせるとよい）。教師は、時間のない時は担任印だけ押すのでもよいが、なるべく空き時間等を利用してコメントを書いてあげる（コメントを書いてあげることがとても大切です）。児童生徒の意欲付けになり、生徒指導の面からも活用できる。

月日	学 習 内 容	時間	保護者印	担任印

- 帰りの会等を利用して、その日に家庭学習で取り組む学習内容を考えさせ、何人かに発表させる。また、優れた取組をしている児童生徒を紹介する。家庭学習で何に取り組めばよいか考えられない児童生徒もいるので、友達を取組を参考にさせるのは効果がある。
- 学期末テストや学力テストなど、出題範囲が広いテストの前には、1週間の家庭学習の予定を立てさせ、計画的に学習に取り組む習慣をつけさせる。

(2) 宿題の出し方

【授業日記】

中・高学年では、自主学習の中に算数の授業日記を取り入れている。授業の終末ではその日の学習内容の定着に重点を置いているため、振り返りの時間を十分にとっていないが、**授業の振り返りを兼ねた授業日記を書く**ことで、学習内容の理解を深めたり、学び方を振り返ったりしている。これに、**コメントを入れる**ことで、児童のよさを引き出したり、**数学的な見方や態度のよいところをほめたりして、授業に意欲的に取り組めるようにした。**

【視写の宿題の継続】（小）

漢字の使い方や正しい言葉遣いを身に付け、文章を理解する力をはぐくむとともに、集中して学習に取り組む習慣を身に付けさせるために、国語の教科書の視写を長期休業日以外は毎日宿題としている。

- ・ 方眼ノートを使い、「32字×7行」の文章を1日3回繰り返し書かせる。
- ・ 担任は、あらかじめ、教科書の文章を32文字ずつに区切り、それをすべて平仮名にしたものを用意する。
- ・ 児童は、この**平仮名のみ**の文章を基に、**漢字や片仮名に直しながら書いていく**。1回目は何度も教科書を見ながら書いていくが、3回目を書く際には、教科書を見なくても書けるようになる。

【「予習・授業・復習」の学習サイクルの確立】（中）

【数学】

予習として教科書を読んできることや、副教材として使用している問題集（200ページ程度あり）を、**授業**の最後に活用したり、**復習**として問題集の中から課題を提示し、家庭学習をしていく習慣もできている。

【国語】

校内研修の「予習・授業・復習」の学習サイクルを身に付けさせるためにワークシートや副教材のワークの有効な活用を意識して指導している。例えば、説明文では**予習**で難解語句の意味調べをおこなう。**授業**で筆者の主張に沿った読み取りをおこない、授業内容を副教材で**復習**として家庭学習をおこなう。このようにして、学習サイクルの確立を目指して指導している。

資料：家庭学習の手引き

例 1

家庭学習の手引き

こんなものを

家庭学習の継続によって、「基礎学力」を確かなものにする事ができ、「自ら学ぶ習慣」をつけることができます。



1. 学習時間

「10分+10分×学年」を目安に、家庭学習が行えるようになって欲しいと思います。机に向かう習慣をつけることが大切です。家庭学習に1年生から取り組み、学年が上がるにつれて徐々に時間を増やしていきましょう。(宿題をする時間も、以下の時間に含めます。)

☆ 1年生	(20分以上)	☆ 4年生	(50分以上)
☆ 2年生	(30分以上)	☆ 5年生	(60分以上)
☆ 3年生	(40分以上)	☆ 6年生	(70分以上)
※ 中学1年生では、2時間以上必要だといわれています。			

家庭学習は時間の多少にかかわらず、毎日続けることに意味があります。お子さんの「やる気」「自主的な取り組み」を認めて、励ましていただければと思います。上記の時間は、あくまで目安ですので、お子さんにあった時間を話し合ってください。

2. 学習の開始・終了時刻の決定

毎日同じ時間帯に学習することで、生活のリズムを身につけるようにします。曜日ごとに決まっている塾や習い事がありましたら、その時間帯を考慮し親子で学習計画を立ててみてはいかがでしょうか。



3. 学習内容

まず最初に学校の宿題をしましょう。次に、「自学」に取り組みましょう。基礎学力の定着のために、各学年で例を示しています。それを参考にして学習内容を考え、学習の計画を立てるようにしましょう。

☆ 毎日取り組むとよい学習。

「音読」「漢字練習」「計算」など続けることにより高い効果を生む内容です。
宿題として出されています。

☆ 時間のあるときにやるとよい学習。

「読書」「問題集・ドリル」「予習や復習」など自分の好みに合わせて取り組む
とよい内容です。

☆学習環境づくりは家庭と学校で☆

*** 生活時間の見直しと環境の整え方 ***

一日の生活リズムについて、家庭で話し合みましょう。

- ① 「学校から帰宅する時刻」または、「スポーツ少年団や習い事から帰宅する時刻」から「就寝時刻」までの、家庭における生活時間帯がどれくらいあるか曜日ごとに洗い出します。
- ② 毎日の生活時間の中に食事や入浴などの時間を設定します。
- ③ どうしても見たいテレビ番組については親子で話し合い、生活時間帯の計画に入れます。
- ④ 残りの時間帯の中から、学習時間帯を決めます。（※読書の時間も入れるとよいですね）
- ⑤ 余った時間は子どもの好きなことに、自由に使える時間として保証しましょう。

学校での取り組み

学校では家庭学習について、各学年で統一した考えの基で指導を行います。家庭学習の様子は学級や授業等で情報を交換しながら家庭と連携を深め、柔軟に対応していくようにします。

☆見届けのポイント☆

- ・よくできているところや努力したところをほめます。
- ・子どもの取り組みの良いところを紹介します。
- ※計算の自学をした場合は、解答のあるものはマルつけをしてから提出してください。



家庭での取り組みせ方

1. 学習への意欲を持たせるためには

- ① 学習を始める時間がきたらテレビのスイッチを切ります。
- ② まず宿題に取り組みせ、次にすぐに取りかかれるやさしい学習（本読みなど）から始めます。

※低学年では、親がそばにすることが大切です。夕食のしたくの時などに近くのテーブルなどでやらせるのも一つの方法です。やったという事実をほめるようにしてください。

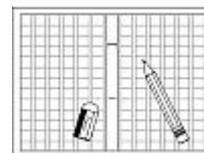
- ③ 途中でつまづいたり、分からない問題は後回しにし、翌日担任に見てもらおうようにしてください。（赤で「分からないので教えてください。」と書いてはどうでしょう。）

2. 学習に集中させるには

- ① 食べながら、飲みながらは避け、しゃべらないで学習する約束をしましょう。
- ② あらかじめ「終わり」の時刻を知らせ、守らせるようにしましょう。

例 2

家庭学習の手引き（3 学年用）



1. 学習時間のめやす（どれくらいの時間にするか）

☆ 3 年生・・・40 分程度

※ 1 日のうちで、決められた時間は机に向かう習慣をつけましょう。

2. 学習の始めと終わりの時刻

☆ 「家庭学習のすすめ～〇〇小学校～」をよく読み、自主的に計画を立てて学習しましょう。

※ 休みの日はなるべく午前中にすませましょう。

☆ 曜日ごとに、学習の始めと終わりの時刻を決めましょう。

○ 学習のはじめ

時 分

～ 学習の終わり

時 分

※ テレビのチャンネルを切って、静かな場所で集中して学習しましょう。

3. 自主学習のメニュー（自主学習ノートを使いましょう）

国語としてノートを使う時はたて書き、社会や理科、算数として使う時は横書きにしよう。

☆まず先生から出された宿題に取り組みます。

☆宿題がおわったら、自主学習ノート等を用い、次のような学習をやりましょう。

（1）国語メニュー

- ①漢字スキルの右ページの漢字を3回ずつ練習する。
- ②今勉強しているところの学習のつづきを書く。
- ③国語辞典を使って今勉強しているところの意味を調べる。
- ④日記（うれしかったこと、発見したことなど）
- ⑤ドリル、問題集など



（2）算数メニュー

- ①今、勉強しているところの問題を自分でつくってやってみる。
- ②今日の算数の勉強で分かったことや感想をまとめてみる。
- ③算数のおもしろいきまりや自分でじっさいにやってみたことをまとめる。

（たとえば、いろいろな容器に入る水のかさをはかってみる）

- ④アイテム、ドリル、問題集など



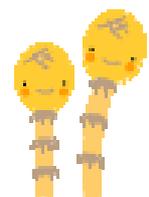
（3）理科メニュー

- ①育てている草花や生き物のかんさつ日記を書く。
- ②調べ学習をする。（たとえば、花のつくり、虫の体の仕組みなど）
- ③ドリル、問題集など



（4）社会メニュー

- ①今、勉強しているところをくわしく調べてみる。（たとえば地図記号など）
- ②そのた、インターネットでしらべたものに、自分のかんそうや分かったことを書きくわえる。そのほかにも、自分で考え楽しい自主学習をやってみよう。
- ③ドリル、問題集など



★ノートの書き方の例★

○月○日（ ） 計算（ 分 秒）

6/17		①		1	4	2			②		5	4	6	
			+	3	1	7				-	2	4	0	
				4	5	9					3	0	6	
										←2行あける ◎ノートにゆったりとていねいに書こう。				

															け
															ん

↑漢字 ↑よみがな

◆保護者の方へ◆

※ 中学年になったら、親は初めから終わりまでそばについている必要はありませんが、途中経過を見たりしてどんなことをやっているかを把握しておく必要があります。文字が乱暴になってしまったり、答えや文字がまちがっていたりしても、直すことができます。計算などの場合は、答え合わせをし、その場で○つけをしてあげてください。

※ 自主学習に取り組む中で、まとはずれなことをしてしまうこともあるので、本人の自主性を大切にしながら、アドバイスをお願いします。

※ インターネットで調べ学習をするときには、必要な情報を選び出すためのアドバイスや情報セキュリティの観点からも保護者の方の監督の下、コンピューターを使わせてください。



例3 家庭学習の手引き

学力向上のために、家族みんなで生活習慣、学習習慣を見つめ直し、家庭学習の充実につなげていってほしいと思います。

☆ 「子どもの学びの習慣化にむけたお願い」 ～まず、家族みんなで、心と頭と体のリズムを整えましょう～

準備① 適切な睡眠時間をとる

準備② しっかりと朝食をとる

準備③ テレビ、ゲーム、携帯電話（メール）、パソコン等の使用ルールを決める

※ 児童のまわりは、楽しい娯楽があふれていますが、家族でルールや時間をよく話し合い生活を変えていくことで、これまでとは違った家族の会話や充実した時間の過ごし方が見えてくるかもしれません。

下の標語は、他校でみかけた言葉を書き留めておいたものです。
参考にしていただけたらと思います。



ふやそう・へらそう 3つの合い言葉

へらそう	テレビ	→	ふやそう	家族との会話
へらそう	ゲーム	→	ふやそう	予習復習
へらそう	パソコン・ケータイ	→	ふやそう	読書・スポーツ

1 なぜ、家庭学習が大切なのか？

○生活リズムをつくり自主的学習のきっかけをつくる

決まった時間に起床、就寝すること、テレビやゲームなどの誘惑に打ち勝つこと、そして自分で約束を決めて机に向かうような姿勢が育つことが望まれます。最初は、高いハードルのように感じても、習慣化すると思ったほど苦にならないものです。生活のリズムづくり、勉強の習慣づくりが大切です。

○反復練習をすることで記憶を定着させ、確実に覚えさせる

学んだことをすぐ復習することでしっかりと記憶に刻まれます。反対に、そのまま放っておくとすぐに忘れてしまいます。ですから、その日に学んだことを、その日に復習させることで、効果が倍増します。漢字の読み書きや計算技能など、反復練習することで、正確に、しかも早くできるようになり、本人の自信にもつながります。

○予習や個に応じた学習をすることで学習意欲が高まる

家庭学習で予習や下調べをすることで学習への意欲が高まり、授業で学ぶ内容が理解しやすくなります。自分の興味のある学習内容を調べたり、発展的な学習内容に取り組んだりすることで、一人一人の力を最大限、伸ばしてほしいと思います。

家庭でのちょっとしたアドバイスが、家庭学習のヒントになります。

2 家庭学習の時間、学習環境について

○望ましい学習時間として、低学年：30分以上 中学年：40分 以上 高学年：50分～1時間以上としています。

○学習に集中できる環境づくり

・家庭学習は、その長さだけでなく、学習する場所、内容、やり方によって効果が異なります。一番よい方法を家の人と話し合ってみましょう。

・テレビを見ながら、音楽を聴きながらなど「ながら勉強」をしない、させないようにしましょう。

・子どもの疑問などに答えてやったり、手の届くところに辞書や地図などをおいて親子で一緒に調べたり、話し合ったりできるようにしておきましょう。

3 学習内容（学習方法）について

○低・中（高）学年では、読書、音読、漢字練習、計算練習などを中心に学習してみましょう。

・一緒に親子で読書をしたり、本屋さんで一緒に本を選んだりして本に親しみましょう。

・子どもの音読はしっかり聞き、よいところをほめてやりましょう。

・漢字練習した後にはノートを見て、よく書けている字はほめ、きれいに書けていない字は直すように話しましょう。

・計算をノートにする場合は、計算と計算の間に余白をとり、行をつめすぎず、見やすいノートづくりを心がけましょう。

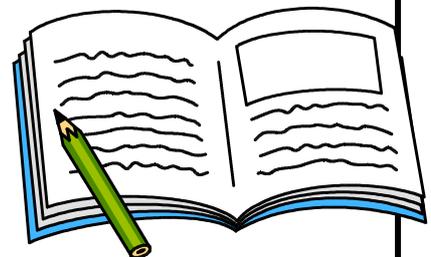
・辞書や図鑑を利用して調べることも大切です。

○学年が進むにつれて、上記の他の調べ学習にも取り組んでみましょう。

・国語辞典を使つての意味調べ

・教科書の重要事項、地図帳、資料集、歴史年表、実験結果などのまとめ

・インターネットの活用した予習、発展学習



○学習を通しての疑問、分からないことがらは明確にして、学校で先生にきちんと聞くようにしましょう。

4 校内研修

(1) 国語

【単元重点一覧表の作成】（『はばたく群馬の指導プラン』P.77 参照）

指導の重点化のためには、「単元重点一覧表」の活用が有効である。生徒の実態に応じて年度初めに作成することで、次のような点で重点化が促される。

- ・国語の能力は、指導事項をら旋的に繰り返して学んでいく中で身に付くものであり、学年ごとに作成しておくこと、既習の指導事項が一目で分かり重点化が図りやすい。
- ・教材文で何を重点的に指導したらよいか、明確な見通しをもって単元を構想した上で指導することができる。
- ・領域ごとに作成しておくこと、指導単元前後の指導の重点が把握しやすくなり、前単元までの指導と評価結果を踏まえて、次単元以降の単元構想の修正が容易になる。

資料① 千代田町立東小学校 国語科「読むこと」説明的な文章における単元重点一覧表

学年	月	指導事項等 単元・教材名	国語科への関心・意欲・態度		読む能力				言語についての知識・理解・技能									
			読む	ア語のまとまり、言葉の響き	イ時間や事柄の順序	エ大事な事柄や文の抜き書き	オ自分の思いや考えの発表	カ読みたい本や好きな文章	イア事物の内容、経験	イイ音節と文字、アクセントと語の意味	イウ意味による語句のまとまり	イエ長音などの表記、助詞の使い方	イオ句読点とかぎ	イカ主語と述語	イキ数形で書かれた文章	ウア平仮名や片仮名	ウイ学年別漢字配当表の読み書き、使用	ウウー・二学年漢字配当表の読み書き
一年		5 なぞなぞあそび	○	◎							○							
		6 くちばし	○			◎					○		○					
		9 みんなでよもう「みいつけた」	○		○		◎						○					
		10 くらべてよもう「じどう車くらべ」	○		◎	○							○			○		
		1 ちがいをかんがえてよもう「どうぶつのおしゃん」	○		○			◎							○			
二年		5 たんぼぼ	○		○		◎							○				
		10 読んで考えたことを書こう「どうぶつ園のじゅうい」	○			◎									○			
		11 読んでせつめいのしかたを考えよう「しかけカードの作り方」	○		◎									○				
		1 知っていることをつなげて読もう「おにごっこ」	○			○		◎	○									

○: その単元で評価する事項 ◎: そのうち特に重点的に評価する事項

作成上のポイントは

- ・国語科の学習指導要領は低中高学年で分かれているので、担当学年だけでなく2年間ですべての指導事項が網羅されるようにする（◎または○が必ず一つは付く）。
- ・指導事項の内容、低、中、高学年の系統性を十分に検討して作成する。
- ・実施しながら随時、加除修正を加えていくようにする。
- ・年度当初に年間を見通して作成し、年度末に低中高学年の三部会で見直しを図る。

【単元構想シートの作成とその活用】（『はばたく群馬の指導プラン』P.77 参照）

身に付けたい力の確実な定着を図るためには、適切な言語活動を分析して選ぶ必要がある。この「単元構想シート」は、その際の教材研究を可視化してまとめるためのものである。つまり、前単元までの児童の実態及び本単元で身に付けたい力から、既習事項と教材文の分析を行い、最適な言語活動を分析、選定する過程を図で示すものである。**作成上の留意点**について以下に示す。

- ①本単元で身に付けたい力を見極める。→指導事項の確認
- ②身に付けたい力を確実に定着させるため、最適な言語活動を選定する。
- ③選定した言語活動を、単元を貫いて位置付ける。
- ④児童の「大好きな」「知りたい」「伝えたい」気持ちを重視して手立てを工夫する。

単元構想シート 単元名「スイミー日記を書こう」（「スイミー」レオ・レオニ作）

文学的な文章における児童の実態

- ・登場人物になりきって音読したり、動作化したりすることを喜ぶ児童が多い。
- ・初発の感想を書くことはできるが、なぜその感想になったのか、理由と結びつけて書くことが苦手である。



指導事項の確認 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像をひろげながら読むこと「C 読むこと 内容（1）のウ」

既習事項の確認

- ・物語を読んで、だいたいの内容をつかみ、感想を書く。
- ・お話にはまとまり（段落）があることを知る。
- ・場面のうつりかわりを理解できる。
- ・登場人物になりきって音読ができる。
- ・登場人物になって、対話劇を行う。

教材文の分析

- ・2年生で2回目の物語文である。
- ・主人公に名前があることで、児童は主人公に寄り添い、物語を読み進められる。
- ・スイミーの行動が中心に描かれていて、物語の展開がとらえやすい。
- ・場面絵と文がわかりやすく、見開きを使って書かれている。

言語活動の選定 物語を読んで、登場人物（スイミー）の気持ちを想像して日記を書く。



言語活動の分析

- ・登場人物(スイミーになったつもりで)に同化して日記を書くことを確認する。
- ・場面毎に、スイミーの行動と周囲の様子を確認する。
- ・スイミーと同化した視点から、行動時の気持ちも想像をひろげて読み、スイミー日記を書く。
- ・日記に題名をつけて、場面の様子を理解する。
- ・書いた日記を紹介し合い、友だちの考えと同じ所や違うところに気付く。

(2) 算数

確かな学力を身に付けた児童の育成

〇〇小学校

本校は、算数の研究に取り組んで今年度で6年目である。昨年度までは、「できた！」「わかった」という知的喜びにあふれる授業を展開し、「確かな学力」をしっかりと身に付けさせたいと考え、「学び合いのある授業」や「活用力の育成」「学ぶ意欲」に視点を当てて研究を進めてきた。今年度は、これまでの研修を活かしつつ、さらに言語活動を充実させて主体的に学ぶ態度を育成することで児童に「思考力・表現力」を身に付けさせたいと考えて取り組んでいる。

学ぶ意欲を引き出すために

子どもたちの学ぶ意欲を引き出すためには、褒めることが有効であると考えた。しかし、これだけでは、対応次第では意欲が下がったり、持続しなかったりという現象が起きる。学ぶ意欲を引き出し、高めていくためには、内発的な意欲が発揮されるまでのプロセスに着目し、意欲的な学習行動を引き起こすことに力点をおいた授業づくりが必要であると考えた。筑波大学教授・櫻井茂男氏によれば 下図のように学習意欲が発現するプロセスがあるという。

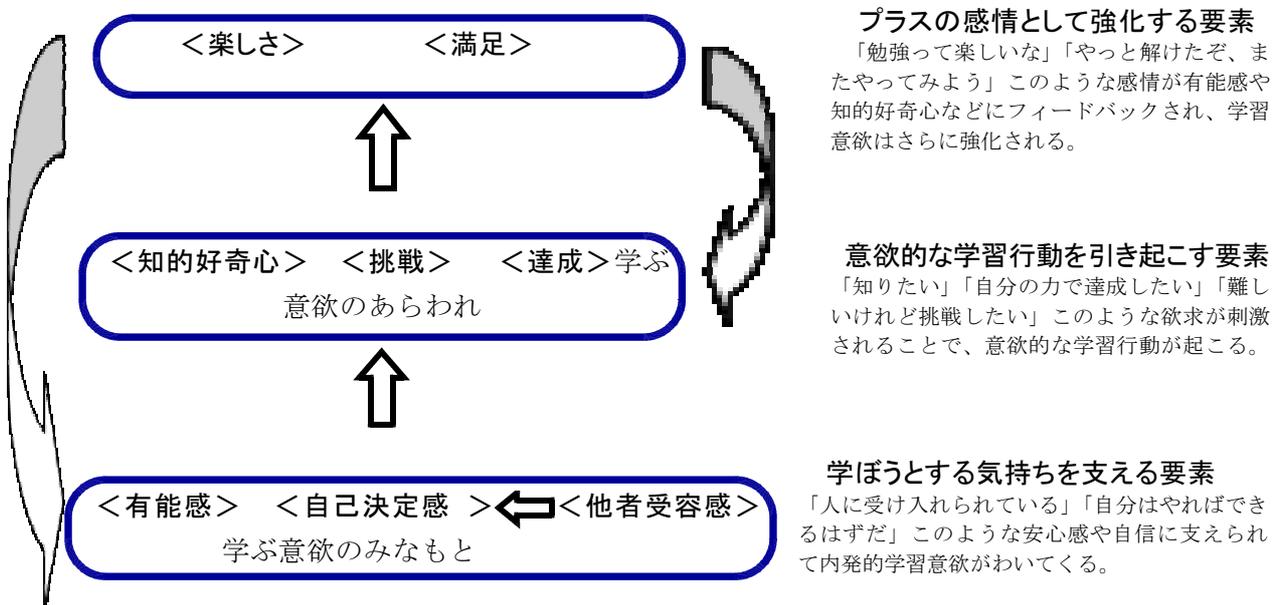


図1 内発的学習意欲の発現プロセス

そこで、算数科の授業においても、このプロセスを念頭に、子ども達が疑問を持ったりきまりや共通点・相違点を見つけ、新たな発見があるような教材を工夫してきた。そうすることで、「知りたい」「自分の力で達成したい」「難しいけれど挑戦したい」等の知的な好奇心を刺激し、学ぶ意欲を引き出すことができた。有能感や自己決定感、他者受容感を活か

した授業作りに学校全体で取り組むことは、学ぶ意欲を引き出すだけでなく、授業を通した人間関係作りの充実にもつながった。

活用力の育成のために

* 学習過程の工夫

活用力を育てていくためには、既習事項を活用して考えたり、説明したり、判断したりする場が必要である。そのために、問題解決的な学習を基本として、その学習過程のどこに、「既習事項を活用している子どもの姿」や「活用力を育てるための手立てや教師の支援」が見られたかを確認し合い、『活用力を育てる学習過程の工夫』としてまとめた。

* 算数的活動の充実

活用力を育てていくためには、どの時間も算数的活動が十分になされるように、教科書の図の拡大や児童の発表用紙、自作の教具等事前の準備が必要となる。

特に図形領域では、既習事項を活用してわかりやすく説明できるように、発表用の図や黒板上で操作できる図等が不可欠である。このような授業で使用するものを次年度も見据えながらクラス分用意し、それを活用しながら授業をすることで算数的な活動の充実を図ってきた。

* 言語活動の充実

既習事項を活用しながら考えを書いたり、相手を意識してわかりやすく説明したりする言語活動を充実させ、互いに学び合い、考えを深められるようにしてきた。特に集団解決の場では、対話による説明活動を取り入れ、説明者は聞き手に短く問いかけるように話し、途中で確認したり、絵や図、式を書いたりしながら説明できるようにしてきた。今年度は、絵や図、式を使って自分の考えを説明する活動の途中で友達が引き継いで説明したり、友達がかいた絵や図、式から考えを読み取って他の児童が説明するなどお互いにわかりやすく説明することで、より高まった数学的表現を身に付けられるようにしたいと考え、実践を続けている。また、聞き手は、うなずいたり反応したりしながら聞き、考えを深められるようにしてきた。

* 既習事項の定着

その日の学習内容は、次時の学習の既習事項となる。日々の1時間1時間の学習内容をしっかりと定着させることが、活用力を育てていく上では不可欠である。

そこで、授業中は、○つけ法を取り入れ、つまずきに早急に対応できるようにしてきた。終末には、その時間の学習内容をスキルかプリントを使ってチェックし、「できた！わかった！！」で授業が終わるようにしてきた。そして、不十分な児童には、休み時間や給食準備中、放課後を利用して補充指導をしたりして、個に応じた指導の充実も図ってきた。

さらに、その日の学習内容を家庭で復習し、しっかりと定着できるように、プリン

トを教科書に合わせて作り替えてきた。市販のプリント集は、次時の問題も同じページに入っていてその日の宿題に使えない、ということもよくあるからである。

また、算数のノートの書き方を全校で統一するなど、ノート指導の充実と啓発に努め、わからなかったら自分のノートを振り返るという習慣作りをしてきた。そのため、わからないことや忘れてしまったことがあると、すぐにノートを振り返る児童が増えてきた。どこに何が書いてあるのか、大事なことがすぐ分かるように書くことが大切であることに児童自身が気づき、間違えた部分を消さずに残しておいたりや色をつけるなどの工夫をしたりしながらノートを書く姿が見られるようになった。その際、よりよい考えや思考の仕方等もポイントとして書く子も見られ、数学的な見方や考え方を活用できるようになった。

家庭学習の充実のために

その日の学習内容を定着させたり、家庭学習の習慣化を図ったりするために、全校共通理解のもとで「音読・漢字・算数」の3つを毎日、家庭学習として課している。

さらに、授業と家庭学習の連携を図り、効果的に家庭学習に取り組めるようにするために、家庭学習の手引きを作成した。家庭学習の習慣化を図るとともに、宿題や自学に取り組むことによって、主体的に学ぶ態度も育成してきた。また、中・高学年では、これに加えて自主学習の中に算数の授業日記を取り入れている。授業の終末ではその日の学習内容の定着に重点を置いているため、振り返りの時間を十分にとっていないが、授業の振り返りを兼ねた授業日記を書くことで、学習内容の理解を深めたり、学び方を振り返ったりしている。これに、コメントを入れることで、児童のよさを引き出したり、数学的な見方や態度のよいところをほめたりして、授業に意欲的に取り組めるようにした。

系統を把握した授業作りのために

活用力を育てていくためには、教師自身が学習の系統や用語の理解を深めておくことが大切であると考えた。特に図形については、他学年でどのように学習して定義や性質が導き出されてきたのか把握し、子どもの説明が不十分な場合には、適切な算数用語で補ったり、修正したりすることが必要である。そこで、図形の定義と性質をまとめ、教師は自分の教科書の後ろに貼付しておき、未経験の学年の用語も、その場で確認して適切に指導できるようにした。

また、数学的な考え方については、教師自身が系統を把握し意図的に指導を重ねていくことが重要と考え、新しい計算を創っていく際によく活用する「単位の考え」や「数を分解するアイデア」の系統表を作成した。さらに、児童が発達段階に応じて適切な図を活用しながら考えられるようにするために、教科書の図の系統表を修正した。これらを活用することで6年間の系統を見通しながら指導にあたっていきたいと考えた。

学びの基盤作りのために

学校全体で学びの基盤作りをして、知的緊張感のある学習活動に集中できる環境をつくることも大事であると考えた。しっかりとした学びの基盤の上に立つてこそ、確かな学力は身に付くと考え、以下のことに取り組んできた。

* 学習規律

互いに迷惑をかけることなく、誰もが集中して学習に取り組み、かつ限られた時間内で学びの質を高めるためには、学習ルールが必要と考え、「〇〇小学校 学習のきまり」を作成し、全校共通理解のもとで指導してきた。

* 基礎学力の定着

5校時開始前の10分間を基礎練習の時間とし、ドリル教材を使用して、基礎・基本の定着を図ると共に、学習したことを活用したり、応用したりする力を養ってきた。また、各学期末と学期始めに行っていたコンテストを計算中心の内容から文章問題等も加えて出題するものへと変更することによって、児童自身が家庭学習でドリル教材の難しい問題にも繰り返し取り組むようになってきた。

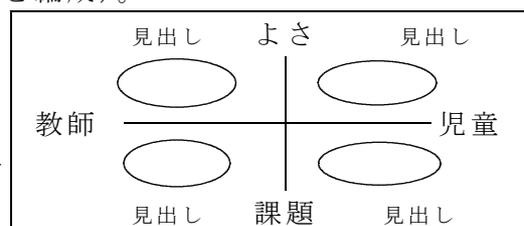
(3) 校内研修の充実に向けて

【全職員での取組】

毎月1回の研修推進委員会、毎月2～3回の研修全体会を開催して研修を進めた。特に以下の2点を中心に、全職員で取り組んだ。

- 1 全学級で研究授業を実施(特別支援学級と市指定他教科研究授業該当学級は除く)
 - ・全職員参加の指導案検討会と授業研究会を必ず実施する。
 - ・低中高代表学級については、全職員で単元づくりを行う。
- 2 主体的な授業研究会の実践(ワークショップ型研修 KJ法)
 - (1) 授業を参観しながら付箋紙(よさ:青 課題:あか)に記入する。
 - (2) グループ別に話し合う(3～4人グループを編成)。

- ① 右のようなシートに付箋紙を貼る。
- ② 付箋の内容を意見交換する。
- ③ 類型化し、まとまりごとに見出しを付ける。
- ④ 「教師の働きかけのよさ」「改善策」を話し合う。



(3) 各グループの内容を発表し合い、考えを共有する。

※ 全職員での実践とするため、定期的な時間確保と研究授業の確実な実施を心がけた。また、主体的に意見交換できる場を設定するために、ワークショップ型研修をなるべく多く取り入れた。

【教育委員会とかかわった取組】

教育委員会指導主事がファシリテーターの役割を果たし、ワークショップ型研修会を以下のような形式で実践した。(継続的に4回の実践)

<全職員で単元計画づくりを実施・・・各学年の指導案に研修成果を反映>

「ワークショップ型研修会の実践」

- 1 研修のねらいを事前に周知(研修主任が中心)



・ワークシートを事前に配布し、研修のねらいを予め理解できるようにする。

- 2 モデルを提示(指導主事が中心)



・ねらいに合わせたモデルの提示
①単元の言語活動設定について
②単元の学習計画づくりについて
③本時の学習計画づくりについて

- 3 3～4人の小グループでの話し合い
(モデルをもとに全職員で演習)



・若手教師とベテラン教師を分けてグループを編成し、若手教師が自由に発言できる雰囲気を作る。

- 4 各グループの成果を発表・共有化
(多様な考えを共有)



・授業のように黒板を活用して、発表する。
・若手教師の意見を意図的に取り上げ、コミュニケーションの活性化を図る。

- 5 成果の確認と助言(指導主事が中心)
(それぞれの考えのよさを確認)

※ 4回の継続的な訪問指導により、ワークショップ型研修会による主体的な研修の進め方を学ぶことができた。また、研修内容についての意見交換が活性化したり、成果の共有化を図ったりしたことにより、一人一人の資質向上にもつながった。

5 その他

(1) 全国学力・学習状況調査の活用

【学力テストの活用】

6 学年においては、公開された全国学力・学習状況調査の問題に挑戦している。事後指導として、正答率の低かった設問について全体で見直すとともに、個別指導にも力を入れ、できなかった問題をできないままにしないように指導している。

(2) 全国学力・学習状況調査の 自校での採点

【ペアでの採点】

目指す子どもについて共通理解するため、**全職員で学力調査を採点・分析**する。その上で、どう指導を改善するのか、授業ではどのような共通実践が可能かについて検討している。

具体的には、学力調査実施後、全職員が手分けをして2人ずつのペアで採点する。**一同に会して時を共有し2人ペアで丸付け**をすることで自然に対話が生まれ、子どもや指導の課題について共有できた。

学力調査実施後、速やかに採点・分析するのが理想であるが、なかなか時間が取れないようであれば、夏休みに職員研修として取り組む方法もある。

(3) 自作テストの実施

【自作テストの作成、実施】

町ぐるみの取組として、①漢字学習の取組、②算数の定着度を確認する取組を、漢字は平成22年から、算数は平成24年から行っている。

漢字は年2回（7月・12月）、算数は年1回（11月）、各主任会が中心となって問題の作成及び分析（成果と課題）を行っている。採点は各担任。平成24年からは、総仕上げとして希望者対象に、「日本漢字能力検定（漢検）」を4小学校で実施（2月）している。

○目的 漢字：習得した漢字を生活の中で活用できる児童の育成

算数：学習した数量や図形等について、基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況の確認

○対象学年 小学校1年生から6年生

(4) 教育委員会による取組

【学力向上対策会議の実施】

本市の学力向上にかかわる運営や内容・方法について、検討・改善を図り、児童生徒の学力向上と教師自身の授業改善を図ることを目的として、「学力向上対策会議」を年に2回（4月・2月）開催している。

【「学力向上に向けた提言」の作成・配布】

数研式CRT（目標準拠型検査）、数研式NRT（集団準拠型検査）の結果を基に分析を行い、各教科（小学校4教科・中学校5教科）の本市としての課題とその改善策（指導改善のポイント・具体的な指導例）をまとめた「学力向上に向けた提言」を作成し、各小中学校へ配布している。

各小中学校は、授業改善の具体的な取組に活用している。

〈平成25年度「学力向上に向けた提言」より抜粋〉

小学校国語

ここが優れています

①5年生（大問10-5）

要旨の読み取りの問題はよくできています。（全国62・〇〇68）

*文章の言葉を根拠にして考えさせたり、重要な点を的確に押さえさせたりすることを通して、筆者の伝えたい内容を読み取ることができるようにしましょう。

② 3年生（大問 9-3） 4年生（大問 10-2） 5年生（大問 6-3） 6年生（大問 14-2）

漢字を書く問題はよくできています。

3年生 雨戸（全国 64・〇〇 80） 4年生 温める（全国 76・〇〇 86）

5年生 試合（全国 78・〇〇 84） 6年生 険しい（全国 68・〇〇 81）

*必要に応じて、未習漢字に振り仮名を付けるなどして、漢字を読む機会を多くすることを通して、漢字に親しむことができるようにしましょう。

ここに課題があります

① 5年生（大問 4-4）

情報を整理して書く問題に課題があります。

（全国 75・〇〇 72）【→指導要領：B(1)ア】

*書こうとする内容に応じて目的や相手を明確にさせ、必要なことを取材させたり、集めた材料の中から必要なことを選ばせたりする必要があります。

② 5年生（大問 4-3）

話し合いの中で、司会の立場としての発言内容を選ぶ問題に課題があります。

（全国 70・〇〇 53）【→指導要領：A(1)オ】

*司会者や提案者、参加者などの役割に基づいて立場や意図を明確にしながら発言することができるようにするために、話し合い活動を日常的に取り入れ、話し合いを多く経験させる必要があります。

・指導改善のポイント

①生活の中で関心のあるものや考えたことなどを課題として設定し、書く目的や相手を明確にさせ、適切に書くことができるようにしましょう。

・具体的な指導例 5年「次への一歩ー活動報告書」

児童が順序立てて表現したり、中心となる内容や考えなどを明確にして記述したりするために、書く活動のそれぞれの場面において、指導事項を踏まえた手立てを取り入れることが大切です。活動報告書を書く場合は、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができるように指導しましょう。

【仮説公開授業の実施】

本市が指定した小学校2校（2教科）、中学校2校（2教科）が、「学力向上に向けた提言」を踏まえた研究授業（仮説公開授業）を2学期に実施している。